

「とても」が韓国語で程度副詞に翻訳されないとき

深見 兼孝

1. はじめに

日本語でも韓国語でも、副詞の分類に関しては意見の一致を見ない部分もあるが、副詞の中に程度副詞を認めることについては異論のないところであろう。日本語でも韓国語でも程度副詞の数は多く、多くの程度副詞が類義関係にあると言える。現在、いくつかの程度副詞の意味や用法について研究が進んでいるが、まだ体系化までには至っていないのが現状であろう。

「とても」は程度副詞の代表的な語あると言ってよく、韓国語に翻訳すれば、当然程度副詞に翻訳されることが期待されるが、必ずしもそうとは限らない。本稿は、日本の小説とその韓国語訳を資料に、「とても」が韓国語で程度副詞に翻訳されなかったときの要因を探り、そこから逆に「とても」の特徴について考察しようとしたものである。

2. 先行研究と問題点

「とても」について森田(1977:325)の要点をまとめれば、その状態の程度がきわめて甚だしいさまをいうこと、口語的であること、話し手の主観が色濃く出ていること、(その前提として)その状態や動作を話し手がよく知っていることの4点になろう。このうち、主観性に関して森田(1977:325)は、「非常に速いスピード」と「とても速いスピード」を比較し、前者が「絶対的な速さ」を言うのに対し、後者は「話し手にとって速く感じられるスピード」と言っている¹⁾。これは、「とても」の場合、話し手が態度が甚だしいと判断しても、必ずしも誰もがそう判断するとは限らないことを示唆している。一方、韓国語の程度副詞に関しては、손남익(1995:100-108)が[基準程度]と(その基準を超えるかどうかという)[過度性]を設定し、임홍빈(1993:269)が叫우と아주についてのみだが、「普通の程度」²⁾という表現を使って、話し手が程度が甚だしいと判定する基準が存在することを言っている。このように基準の存在を持ち出せるということは、自分が程度が甚だしいと判断することは他人もそうであろうという前提に話し手が立っていることの反映のように思える。つまり、日本語の「とても」と韓国語の程度副詞では、話し手が程度が甚だしいと判断する根拠について違いがあることが予想されるのである。これについて考察するのが本稿の目的の一つである。

また、森田(1977:325-326)は「まったく」が「相手に共感し共鳴するときに発せられる言葉」としても使われることを挙げ、「まったく」が程度副詞として用いられる意味的基盤を「“だれしもそう思うとおり、確かに、と現状を常識的な見方で肯定する」ことに置いているように思われる。「だれでもそう感じる状態は、完全にそうなりきった状態」で「程度の強調」となるというわけである。さらに、「“だれしもそう思うとおり、確かに、と現状を常識的な見方で肯定する」ことから、「“本当に、”実際に、の意味を持つ「実に」にきわめて近い意味になる」と言っている。「実に」は陳述副詞のうち断言の陳述副詞に分類される³⁾。すなわち、日本語においては「程度の強調」と「断言性」は接近した概念であるということになる。一方、韓国語においては임흥빈(1993:269)が、程度副詞아주の類義語として정말로を挙げている。形態的に정말은「本当」を意味する名詞정말と格助詞은が結合し副詞として固定したもので、さらにそこから은の脱落によって副詞정말も形成されたとされる。정말로と副詞정말とは類義関係にあり、정말は陳述副詞のうち強調的断定副詞⁴⁾とされるので、정말로も同類としてよいであろう。すなわち、韓国語においては「程度の甚だしさ」と「断定の強調」は近接した概念⁵⁾ということになる。

ここから、「とても」が韓国語の정말やその類義語に翻訳される可能性が十分にあると言える。どのような状況なら可能なのか検討し、そこから「とても」について考察するのが、本稿のもう一つの目的である。

3. 方法

本稿では、程度副詞「とても」が韓国語で程度副詞に翻訳されなかった場合のうち、主に「とても」に当たる部分がない（すなわち削除）の場合と、정말に代表される陳述副詞もしくはそれに相当する語句に翻訳された場合に注目したい。

削除の場合について言うと、これは、原作で与えられた状況が、韓国語で程度の甚だしさを言うのに適切でないか、不必要であると翻訳家が判断したためであろうが、その理由を完全に明らかにするのは極めて困難である。しかし、その中に程度が甚だしいと判断する根拠の違いが隠れているのではないかと思われ、本稿ではそれに集中して考察する。

4. 翻訳の様相と考察

4-1 翻訳の様相

資料から延べ246の「とても」を得た⁶⁾。そのうち5つは「とても」を含んだ文そのものが翻訳されていなかった。そこで、残り241の「とても」を対象に「とても」の訳語とそれが用いられた回数を調べた。その結果が表1である。程度副詞は網かけ

で示した。多様な程度副詞が現われているが, 손남익(1995:100-108)の[+過度性]を持つもの(너무, 매우, 무척など)と[-過度性]を持つもの(꽤, 아주など)の両方がある⁷⁾。また、程度の低いことを表す좀⁸⁾も現われている。検討に値すると思われるが、本稿ではそのような翻訳例があったという指摘に留めておきたい。

表1 「とても」の訳語

고소하다	1	굉장히	9	그렇다	1
그리	1	꽤	1	너무	8
너무나	1	너무너무	1	너무도	5
대단히	7	마치	1	많이	2
매우	18	몹시	17	못내	1
무척	30	무척이나	2	상당히	1
쉬	1	신나다	1	아주	67
아주아주	3	유난히	1	정말	4
좀	2	지독하다	1	참	5
참으로	2	꽤	3	하도	1
항상	1	削除	33	その他	9
				合計	241

さて、表1には너무に対して너무너무、아주に対して아주아주のような疊語が見える。また、너무と무척に対して-(이)나가付加された너무나と무척이나、さらに너무に対しては-도が添加された너무도も現われている⁹⁾。これらは全て程度の甚だしさを強調しており、「とても」が極めて程度の甚だしいことを表すことを反映していると言ってよいだろう。同時に「とても」の持つ主観性も反映した翻訳でもあるだろう。

予想したように、「とても」が陳述副詞に翻訳された例も見える。表1でゴシック体で示した、마치, 정말, 참, 참으로¹⁰⁾がそれである。このうち、마치는「比較(あるいは喩え)」を表し、日本語の「あたかも」に似た意味の副詞である。日本語の「ほんとうに」に似て断定を強調する他の3語とは異なる。便宜上先に4-2でこの3語、計11例を対象に考察する。また、削除の例も33見える。4-3で考察する。

4-2 陳述副詞への翻訳

次の例は、話し手が主人公である15才の家出少年「僕」に図書館の仕事を依頼する場面である。依頼における常套的な表現だろうが、依頼を受けてくれれば「ありがたい」と、話し手の気持ちをいわば先取りして表現することで、聞き手が依頼を受けることを促すか受け入れやすくしていると考えられる。この「ありがたい」を修飾する語として「とても」が使われているが、その効果をさらに高めることを狙ったもの

であろう。その「とても」の翻訳は정말である。韓国語訳では、依頼を受けてくれれば、間違いなく(정말)「ありがたい(고맙다)」気持ちになると表現されている。

1a) でもあまり体力のない僕と佐伯さんにとっては、君がそれを代わりにやってくれればとてもありがたい。

1b) 하지만 그다지 체력이 강하지 못한 나와 사에키 상으로서는, 네가 그 일을 대신해 준다면 정말 고맙겠어. (カフカ)

次の例は主人公である家政婦の「私」が、外出をしようとしなない「博士」に外出を促している場面である。外が「とても気持ちのいい天気」だと言うことでその気にさせようとしている。「とても」の翻訳は정말であるが、韓国語訳では外は誰が見ても(정말)「気持ちのいい天気(기분 좋은 날씨)」だと表現されている。

2a) 「とても気持ちのいいお天気ですよ」

2b) “정말 기분 좋은 날씨네요.” (博士)

次の例に先立つ部分で、話し手ははやく動物園から立ち去りたくて、閉館の時間が迫っていると聞き手に言っているのだが、聞き手は一向に気にしない。それどころか、「麒麟」の檻の前で「麒麟」に興味を覚え、立ち止まってしまった。「麒麟がとても怖い」というのは、早くその場を離れたい話し手の口実であるが、韓国語訳では「麒麟」が「こわい(무섭다)」のは話し手の本心だ(정말)と伝えている。

3a) ぼくは困って言いました。「ぼくは、麒麟てやつ、とても怖いんだよ。」

3b) 나는 난처해서 “나는 기린이란 놈 정말 무서워.” (壁)

このように、聞き手に何か行動を促す場面で、「とても」の翻訳として정말が使われている。確かなこと、だれも当然と思うことは聞き手の共感を得やすい。実際この共感が聞き手の行動を促すことになるのであろう。

次の例の話し手は家政婦である主人公の「私」、聞き手は「博士」である。「博士」は病気のために記憶が 80 分しかもたないとう設定である。「博士」は話し手の外出中にリンゴをむこうとしてナイフで指を切った話し手の息子の手当をし、帰宅した話し手といっしょに病院に連れていく。そのとき病院の待合室で「博士」が話し手に教えてくれた数学の公式のことを語っている場面である。語ったのは翌日で、「博士」は一連の出来事を覚えていない。しかし、話し手は「博士」に前日の出来事を語り、それがいっしょに経験したことだと言うことによって、「博士」との関係性を回復しようとしている。その一環として、「博士」の教えてくれた公式が「とても崇高」なものであると賞賛することで、話し手が「博士」が優れた数学者であることを認めていることを伝えようとしているのである。韓国語訳では「博士」が教えてくれた公式が誰でも認める(정말)「崇高な公式(숭고한 수식)」と表現されている。

4a) とても崇高な公式です。

4b) 정말 숭고한 공식이더군요. (博士)

自己の主張や意見を確かなこと、だれも当然と思うこととして言うことは、聞き手にそれを納得してもらうことにつながる。次の例では、ホテルマンである話し手は捜査に来た刑事に、ホテルの客室のドアがオートロック式になっているのは「馴れればとても便利」だからだ言っている。「とても」の翻訳は참であるが、韓国語訳ではだれでも「(馴れれば) 便利である(편리하다)」と思うのが当然(참)であると言うことによって、それを聞き手である刑事に理解してもらおうとしていると解釈できる。

5a) 「いったんロックされたドアは、外側からは開きませんが、内側からはドアノブをひねりさえすれば開きますから、馴れればとても便利なのです」

5b) “일단 잠겨 버린 문은 밖에서는 열 수 없지만, 안에서는 손잡이를 돌리기만 하면 열리니까, 습관만 되면 참 편리하지요.” (高層)

次の例は、戦時中国民学校の教師だった話し手が、引率していた生徒が山の中で集団で意識を失うという摩訶不思議な体験を、戦後アメリカ軍の調査官に話している場面である。話し手は意識を失った生徒の頬を叩いて意識を回復させようとしたが、そのときの感覚のことを言っている。話し手は一連の体験がいかに非現実的だったとしても、アメリカ軍の調査官にそれが事実であることを納得させようと努めている。韓国語訳ではその感覚がだれでもはっきりわかる(참으로)「奇妙な(기묘하다)」ものだったとなっている。

6a) それはとても奇妙な感覚でした。

6b) 참으로 기묘한 감각이었습니다. (カフカ)

以上のように、韓国語訳の話し手は自分の言うことが真であると言うことによって、聞き手の行動を促したり、共感や理解を得ようとしている。「とても」が陳述副詞への翻訳が可能なのは、程度が甚だしいことは万人が認める当然のことであるという推論が働くためであろうが、いずれの例も対話者の発話に対応し、それに同意するという形を取っていないことに留意されたい。2)と3)は話し手が切り出したものであり、1)、4)~6)は比較的長い発話の一部で聞き手の介入はない。また、5)は直前で聞き手である刑事が「オートロック方式のドアノブは不便だ」と発話しており、明らかにそれに対する同意ではない。

次の例は思考内容である。思考の主は駅で切符がたくさんはいつている箱を見て、それが駅員の仕事だと思い、自分もそうなりたいと思っている。「でも」が示すように他の考え(ここではスパイになりたいと思っていたこと)との対比あるいはそれを打ち消す形で提示されている。他者に対して共感や理解を求めるものではないが、あくまでも自分の従来の考えに対して行われている。

7a) でも、いまの切符をいっぱい箱にしまっておく人になるのも、とても、いいと思うわ

7b) 하지만 상자 가득 전철표를 담아두는 사람이 되는 것도 참 좋을 것 같애. (トット)

4-3 削除

次の例で「とても」の被修を受けるのは「うれしそう」で、その翻訳は기쁘다である。「とても」は몹시と翻訳されている。この例は、雑誌社の記者である「中禅寺敦子」が、旧家で起こった猟奇事件と噂される事件の同行取材を認められた直後の場面である。彼女はその事件に非常な関心を持っていた。人のうれしい表情、またその表情から見たうれしさの程度は、だれでもおおよそ推測がつくであろう。

8a) 中禅寺敦子はとても嬉しそうな顔をして笑った後、急に怖い顔をして、「これは兄貴と編集長には内緒にしてください。

8b) 추젠지 아츠코는 몹시 기쁜 얼굴로 웃은 후, 갑자기 무서운 얼굴을 하더니, “이건 오빠랑 편집장님에게는 비밀로 해 주세요. (姑獲鳥)

次の例は、二人暮らしだった祖母を亡くし、悲しみで心を閉ざしていた主人公が、同年代の男の子とその、同性愛者の父親の家庭に居候することになって、少しずつ心が楽になっていったことを描写した場面である。「とても」の被修飾語は「たのしい」であるが、上と同じく기쁘다で翻訳されている。しかし、「とても」に対応する語は存在しない。作品で設定されたこのような環境で、少しずつ心が楽になっていくことが「とても」と言えるほど「たのしい」かどうかは、まったく主人公の受け止め方であって、だれでもそうだとは言えないであろう。

9a) 少しずつ、心に光や風が入ってくることがとても、楽しい。

9b) 마음으로 조금씩 빛과 바람이 통하여, 기뻐다. (キッチン)

次の例は主人公が父親といっしょに行った志賀高原で、外国人の男性のスキーの前に乗せてもらって滑ったときの感想である。このような格好で滑ることに対して起こる感情は人によってまちまちだろうが、「とても（とても）たのしい」と思う人はそう思うだろうと、だれでも納得の行くところである。「とてもとても」と畳語形になっているが、被修飾語は前の例と同じく「たのしい」である。「とてもとても」は早稲に、「たのしい」は신이 나다に翻訳されている。

10a) 少しこわかったけど、とてもとても楽しいことだった。

10b) 그런데 좀 무섭긴 했지만 무척 신이 났다. (トット)

しかし、次の例で、ただ単に「道に新聞紙が広げておいてある」ことが、だれにとっても「とてもうれしくなる」ことだとは考えにくい。「うれしくなる」は上と同じく신이 나다に翻訳してあるが、「とても」は翻訳されていない。

11a) お昼休み、学校の裏をブラブラ歩いていて、道に新聞紙がひろげて置いてあるので、とてもうれしくなって、遠くから、はずみをつけて、凄い、いきおいで走って来て、その新聞紙に、とび乗ったら、それは清掃の人が、トイレの汲み取り口をどかして、におうといけないので、のせてあっただけだから、そのまま、汲み取り口に、ズボ！っと、胸まで、つかってしまったり……。

11b) 게다가 점심 시간에 학교 뒷마당을 공연히 어슬렁거리다가 신문지가 펼쳐져 있는 것을 보고는 신이 나서, 저만치서 달려와 획!하고 신문지에 올라탔다가 그만 정화조 구멍으로 풍덩 빠진 일도 있었다. 그 신문지는 청소하는 아저씨가 정화조 뚜껑을 열어두었다가 잠시 일손을 놓는 사이에 냄새가 날까봐 덮어둔 것이었다. (トット)

次の例は、主人公が真夜中に少女の幻を見る場面である。その姿は現実離れして美しい。主人公はそんな「純粋な美しさ」に「哀しみに似た感情」を起こす。それを「とても自然な感情だ」と言っている。確かにそういうこともあるだろうと思える。「とても」は 매우 に、「自然だ」は 자연스럽다 に翻訳されている。

12a) それはとても自然な感情だ.

12b) 그것은 매우 자연스러운 감정이다. (カフカ)

次の例は、主人公がしばらく滞在した山小屋から住込で働いている図書館に戻る途中の場面である。主人公は車を運転している「大島さん」（図書館の職員でもあり、主人公に図書館で働くことを勧めた人物でもある）から、同じ図書館の責任者である「佐伯さん」の特異性について聞いている。「大島さん」は話を一旦切って、主人公にいずれ「佐伯さん」のことが理解できるはずだと言い、主人公の膝に手をおいた。それを「とても自然な動作だ」と言っている。しかし、このような場面で人の膝に手をのせることが、一般的に「とても自然だ」とは言えないだろう。主人公のまったく個人的な判断でしかない。「とても」は翻訳されていない。

13a) とても自然な動作だ.

13b) 자연스러운 동작이다. (カフカ)

以上のように、話し手のまったくの個人的な判断感情であるときは「とても」は韓国語に翻訳されない。日本語では程度の甚だしさは、その場その場の話し手の判断に基づいたもので、一定の基準があるわけではない。これに対し、韓国語では一般的な常識や通念に基づいて程度の甚だしさが判断されると言える。

次の例で「高橋君」の「足が短い」のは小児麻痺のせいである。病的に足が短く、その程度を甚だしいと判断することは、健常児と比べてのことである。倫理性は別にして、だれでも行うことであろう。「とても」は 아주 に翻訳されている。

14a) 高橋君の足は、とても短くて、ガニ股の形に曲がっていたのだった。

14b) 다카하시의 다리는 아주 짧고 안짱다리 모양으로 휘어져 있었던 것이다. (トット)

これに対し、次の例では主人公の昔の恋人の背の高さのことを言っている。いくら「見上げる形」になっても、病的でもないかぎり背が高いといっても知れている。また、原文から他の人と比較されているとも読み取れない。客観的に「とても」と判断する材料はないのである。「とても」は翻訳されていない。

15a) とても背が高いので、いつも見上げる形になった。

15b) 키가 커서 항상 내가 올려다보았다. (キッチン)

以上のように、話し手が程度が甚だしいと判断するのが、一般的な常識や通念に基づかないものであるとき、「とても」は韓国語に翻訳されない。日本語において、話し手が何かに基づいて程度が甚だしいと判断するのだとしても、それはその場その場で変わる個人的で可変的なもので、基準と呼べるようなものではないのではなかろうか。なお、この節で挙げた例文は、聞き手の行動を促したり、共感や理解を得ようとするものではなく、原文ではただ程度が甚だしいという判断だけが述べられている。

5. おわりに

日本の小説とその韓国語訳を資料に、「とても」が韓国語で程度副詞に翻訳されていない場合、特に、陳述副詞に翻訳されている場合と、翻訳では削除されている場合を中心に、その条件を探ってみた。その結果、「とても」が陳述副詞に翻訳されるのは、話し手が聞き手の行動を促したり、共感や理解を得ようとしたり、自分のこれまでの考えに対比させたりそれを打ち消したりしているときであった。韓国語訳では話し手は自分の言うことが真であると言うことによって、同じ効果を出している。また、このとき、話し手の発話は、対話者の発話に対応し、それに同意するという形をとっていなかった。逆に言うと、「とても」は話し手が聞き手の行動を促したり、共感や理解を得ようとしたり、自分のこれまでの考えに対比させたりそれを打ち消したりしているときでも、対話者の発話に対応し、それに同意するという形を取らない時に用いる、と言える。次に削除が起こっているのは、話し手は程度が甚だしいと判断しているだけで、その判断が一般的な常識や通念に基づかないものであるときだった。話し手は一般的な常識や通念とは関係なく、まったく個人的な判断をしており、これが「とても」の主観性を生み出していると言える。

今後は、韓国の小説とその日本語訳を資料にしたときも、同じことが言えるかどうか確かめる必要がある。同じことが言えて、はじめて確かなものとして示すことができる。それまでは暫定的な結論としておきたい。

なお、筆者の理解では、従来程度性は語の意味の強さ、すなわち強意(intensity)に関わり、断言性は強調(emphasis)に関わる概念で、区別されてきた。しかし、程度副詞と陳述副詞が意味的に繋がっていることは、強意と強調も絶対的な区別ではないことを示しているのだろう¹¹⁾。この点も今後の課題である。

注

1) 森田(1977:325)は「とても」は「客観的な叙述を旨とする文章の場合は使用を控えたい」と言っている。また、森田(1980:250)は「非常に」について「文章中に使われる場合は自然だが、くだけた会話では落ち着かない場合が出てくる」と言っている。ここから、「とても」と「非常に」について言えば、主観性と文体が密接な関係にあ

ることが窺える。

2) 임홍빈(1993:269)は매우と아주について次のように言っている(訳と下線は筆者) : 매우--①形容詞や冠形詞や他の副詞、あるいは程度の意味を持ちうる名詞の前に使われ、ある性質や状態、頻度などが普通の程度を相当越えている状態にあることを表す。②程度の意味と関連する動詞や動詞的な表現の前に使われ、ある行動が普通の程度を相当越えている状態にあることを表す。

아주--状態や程度の意味を持つ形容詞や冠形詞、あるいは他の副詞や動詞の前に使われるときは、その程度が매우より甚だしいことを表し、程度の意味を持ちにくい行動については、時にその行動が完全に成り立っていることを表す。

3) 山田(1908:515, 529-531)による。これに対し、日本語記述文法研究会(2010:106-110)の考え方にしたくえば、「実に」は「モダリティの副詞」に属すものと考えられる。

4) この用語は김승곤(2009:608-612)の副詞の分類に従ったものである。韓国語文法における陳述副詞(固有の韓国語では말재어찌씨)の機能は、概略日本語のそれとあまり変わらないと見てよいと思われるが、손남익(1993:25-51)の副詞の意味論的分類に従えば「叙法副詞」に当たる。なお、최현배(1937:816)では「陳述副詞」の他「話法副詞」という名称も考えられていたようである。

5) 임홍빈(1993:614)は참について「形容詞あるいは時に状態性の意味を持つ動詞や動詞文の前に使われて、状態の程度が非常に大きいことを表す」(筆者訳)とし、참を程度副詞であるかのように扱っている。本稿は참を本来は「本当、真」という意味の名詞であることから陳述副詞とみなしているが、これも「程度の甚だしさ」と「断定の強調」の近接性を示す例となるだろう。注 10)も見られたい。

6) 「ととても」は含めていない。「とてもとても」は、二つの「とても」の間に読点(,)があってもなくても、1として数えた。

7) 「とても」の訳語として現われているだけに、これらの程度副詞の意味を区別できるよう、日本語訳をつけることは極めて困難である(陳述副詞についても同様である)。また、매우が[+過度性]、아주가[-過度性]であれば、매우の方が아주より程度が甚だしいことを表すように思えるが、임홍빈(1993:269)の見解(注 2)を見られたい)とは異なる。

8) 「少し、ちょっと」の意味である。손남익(1995:106)は[+基準程度][-過度性]としている。

9) 무척이나と너무도가独立した副詞かどうかについては態度を保留したい。

10) 참と참으로の形態的關係は정말と정말로に平行としておく。

11) 実際、森田(1977:325-326, 1980:249-250)では「程度の甚だしさ」と「程度の強調」をほとんど区別していないように思える。

用例出典

(姑獲鳥) 京極夏彦『姑獲鳥の夏』講談社文庫、講談社/김소연(訳)『우부메의 여름』손안의 책.

(カフカ) 村上春樹『海辺のカフカ(上)』新潮文庫、新潮社/김춘미(訳)『해변의 카프카·상』문학사상사.

(壁) 安部公房『壁』新潮文庫、新潮社/서병조(訳)『벽』:서병조『하얀 사람의』문예춘추사.

(キッチン) 吉本ばなな『キッチン』角川文庫、角川書店/김난주(訳)『키친』민

음사.

(高層) 森村誠一『高層の死角』祥伝社文庫、祥伝社／김수연 (訳) 『고층의 사각지대』 동서문화사.

(トット) 黒柳徹子『窓ぎわのトットちゃん』講談社文庫、講談社／김난주 (訳) 『창가의 토토』 프로메테우스 출판사.

(博士) 小川洋子『博士の愛した数式』新潮文庫、新潮社／김난주 (訳) 『박사가 사랑한 수식』 이레.

言及した文献

日本語記述文法研究会(2010)『現代日本語文法①』くろしお出版

森田良行(1977)『基礎日本語 1』角川小辞典 7. 角川書店

森田良行(1980)『基礎日本語 2』角川小辞典 8. 角川書店

山田孝雄(1908)『日本文法論』宝文館出版

김승곤(2009) 『21 세기 우리말본 연구』 경진

손남익(1995) 『국어부사연구』 박이정

임홍빈(1993) 『뉘앙스표를 겸한 우리말사전』 아카데미하우스

최현배(1937) 『우리말본』 延禧專門學校出版部：金敏洙・河東縞・高永根編(1979) 『歷代韓國文法大系』 第 1 部第 18 冊. 塔出版社